

製品安全データシート

(Material safety data sheet)

1. 製品及び会社情報

製品名	MIYAGAWA 246-R		
会社名	日本グリース株式会社		
所在地	大阪市中央区南船場 4-11-28		
担当部門	営業部	電話番号 06-6282-5412	FAX番号 06-6282-5418
緊急連絡先	技術研究所	電話番号 078-731-8147	
整理番号	C0003		
制定日			
改訂日	2010/12/22		

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性

火薬類	分類できない
自己反応性化学品	分類できない
自己発熱性化学品	分類できない
水反応可燃性化学品	分類できない
酸化性液体	分類できない
有機過酸化物	分類できない
金属腐食性物質	分類できない

健康に対する有害性

急性毒性(蒸気)	分類できない
急性毒性(粉塵及びミスト)	区分4
皮膚腐食性/刺激性	区分3
眼に対する重篤な損傷性/刺激性	区分2B
呼吸器感受性	分類できない
生殖細胞変異原性	区分2
生殖毒性	分類できない
授乳に対する影響	分類できない
特定標的臓器毒性(単回暴露)	区分2(肺)
特定標的臓器毒性(反復暴露)	区分1(肺)
吸引性呼吸器有害性	区分1

環境に関する有害性

水生環境有害性(急性)	分類できない
水生環境有害性(慢性)	分類できない

※記載のない項目は「区分外」または「分類対象外」

GHSラベル要素

絵表示



注意喚起語

危険有害性情報

危険

吸入すると有害(気体, 蒸気, 粉塵, ミスト)

軽度の皮膚刺激

眼への刺激性

遺伝性疾患のおそれの疑い(他の経路からの暴露が有害でないことが決定的に証明されている場合、有害な暴露経路を記載)

臓器の障害のおそれ(もし判れば影響を受ける全ての臓器を記載する)(他の経路からの暴露が有害でないことが決定的に証明されている場合、有害な暴露経路を記載)

長期または反復暴露による臓器の障害(もし判れば影響を受ける全ての臓器を記載する)(他の経路からの暴露が有害でないことが決定的に証明されている場合、有害な暴露経路を記載)

飲み込み、気道に侵入すると生命に危険のおそれ

注意書き

<予防策>

<応急措置>

- ・吸入した場合：被災者を空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- ・気分が悪い時は、医師に連絡すること。
- ・皮膚刺激が生じた場合、医師の診断/手当てを受けること。
- ・目に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
- ・目の刺激が続く場合は、医師の診断/手当てを受けること。
- ・暴露または暴露の懸念がある場合：医師の診断/手当てを受けること。
- ・暴露した時、または気分が悪い時は、医師に連絡すること。
- ・気分が悪い時は、医師の診断/手当てを受けること。
- ・飲み込んだ場合：直ちに医師に連絡すること。

<保管>

<廃棄>

- ・吐かせないこと。
 - ・施錠して保管すること。
- 内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に廃棄を委託する。

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別

化学名又は一般名
成分および含有量

混合物

不水溶性切削油剤
精製鋳物油 約 85%
硫黄系極圧添加剤 約 5~10%
油性向上剤 約 5~10%
特定できない。

化学特性 (化学式)

官報公示整理番号 (化審法、安衛法)

CAS No.

企業秘密なので公開できない。
企業秘密なので公開できない。

危険有害成分

労働安全衛生法 第57条 表示対象物

非該当

労働安全衛生法 第57条の2 通知対象物

・鋳油 (80~90%)

化学物質排出把握管理促進法

非該当

毒劇物取締法

非該当

4. 応急措置

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。体を毛布等で覆い、保温して安静に保ち、直ちに医師の診断を受ける。

皮膚 (又は髪) に付着した場合

直ちに汚染された衣類を脱ぎ、皮膚を大量の水と石鹸で洗う。又、水疱、痛みなどの症状が出た場合には、必要に応じて医師の診断を受ける。

目に入った場合

水で数分間注意深く洗い、直ちに医師の診断を受ける。コンタクトレンズを着用して容易に外せる場合は外し、洗浄を続ける。

飲み込んだ場合

無理に吐かせないで直ちに医師の診断を受ける。口の中が汚染されている場合には、水で充分に洗う。

5. 火災時の措置

消火剤

霧状の強化液、泡、粉末または炭酸ガス消火器。

使ってはならない消火剤

棒状の水を用いてはならない。

特有の危険有害性

発生した蒸気によって燃焼や爆発が起きる可能性がある。

特有の消火方法

火元への燃焼源を断ち、適切な消火剤を使用し消火する。初期の火災の際には粉末や炭酸ガス消火器を用いる。大規模火災の際には泡消火薬剤を用いて空気を遮断することが有効である。注水は火災を拡大して危険な場合がある。

消火を行う者の保護

消火作業は風上から行い、必ず保護具を着用する。燃焼又は高温により、有毒なガスが生成する可能性があるため呼吸用保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具
及び緊急時措置
環境に対する注意事項
封じ込め及び浄化の方法・機材

除去作業の際には必ず適切な保護具を着用する。漏出した場所の周囲にロープなどを張り、関係者以外の立ち入りを禁止する。
河川、下水道等に流入しないように注意する。
漏出源を遮断し、漏れを止める。少量の場合には土砂、ウエス等で吸着させて回収する。大量の場合には土砂等で囲い、流出を止めた後、回収する。海上の場合、オイルフェンスを展開し拡散を防止し、吸着マット等で吸い取る。
事故の未然及び拡大防止を図る目的で、速やかに関係機関に通報する。付近の着火源となるものを速やかに取り除き、着火した場合に備えて消火用器具を準備する。こぼれた場所は滑りやすいため注意する。

二次災害の防止策

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

指定数量以上の量を取扱う場合には、法で定められた基準に満足する製造所、貯蔵所、取扱所で行う。熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけるとともに、みだりに蒸気を発散させない。静電気放電に対する予防措置（導電性を有する作業衣や靴などの装着等）を講ずる。

局所排気・全体換気

室内で取扱う場合は十分な換気を実施すること。換気装置を取付ける場合は、防爆タイプを用いる。

注意事項

発生した蒸気は空気より重いので滞留し易いことより、換気および火気などへの注意が必要である。

安全取扱い注意事項

水分・きょう雑物の混入に注意する。ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質との接触を避ける。

保管

技術的対策

保管場所で使用する電気器具は、防爆構造とし、器具類は接地する。

適切な保管条件

直射日光を避け、涼しく換気の良い場所に保管する。容器を密閉し、保管場所に施錠する。法で定められた表示をして保管する。ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質との接触および保管を避ける。

安全な容器包装材料

容器に圧力をかけない。圧力をかけると破裂する事がある。

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策

ミストが発生する場合は発生源の密閉化、または排気装置を設ける。

管理濃度

(作業環境基準：厚生労働省告示第195号 平成21年3月31日)
設定されていない

許容濃度

日本産業衛生学会（2010年度版）

3 mg/m³（鉱油ミストとして）

ACGIH（2009年度版）

TWA 5 mg/m³（オイルミスト（鉱物油）として）

保護具

呼吸器の保護具

必要に応じて防毒マスク（有機ガス用）を着用する。

手の保護具

長時間、または繰り返し接触する場合には耐油性のものを着用する。

目の保護具

飛沫が飛ぶ場合にはゴーグル型眼鏡を着用する。

皮膚及び身体の保護具

長時間にわたって取り扱う場合、または濡れる場合には耐油性の長袖作業服等を着用する。

適切な衛生対策

付着した衣類は脱ぎ、完全に清浄にしてから再使用する。取扱い後はよく手を洗う。作業中は飲食、喫煙をしない。

9. 物理的及び化学的性質

外観

茶褐色透明の液体

臭い

弱い固有の臭気

pH

該当しない

(希釈倍率 倍)

融点

現在データなし。

沸点	現在データなし。
引火点	170℃ (COC)
発火点	現在データなし。
燃烧性	あり
爆発限界	基油の爆発限界は次のように推定される。 上限 7% 下限 1%
蒸気圧	現在データなし。
蒸気密度	現在データなし。
密度	0.886 g/cm ³ (15℃)
溶解性	不溶
オクタノール/水分配係数	現在データなし。
分解温度	現在データなし。
動粘度	19.54 mm ² /s (40℃)

10. 安定性及び反応性

安定性	安定
危険有害反応可能性	強酸化剤との接触を避ける。
避けるべき条件	混蝕危険物質との接触
混蝕危険物質	ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質
危険有害な分解性生物	燃焼により煙、一酸化炭素等が発生する可能性がある。
その他	有用な情報なし。

11. 有害性情報

急性毒性(経口)	ラット LD ₅₀ 5,000mg/kg以上(推定値)
急性毒性(経皮)	有用なデータなし。
急性毒性(気体)	有用なデータなし。
急性毒性(蒸気)	有用なデータなし。
急性毒性(粉塵及びミスト)	有用なデータなし。
皮膚腐食性/刺激性	有用なデータなし。
眼に対する重篤な損傷性/刺激性	目に入ると炎症を起こすことがある。
呼吸器感作性	ミストまたは蒸気を吸入すると気分が悪くなる可能性がある。
皮膚感作性	皮膚に触れると炎症を起こすことがある。
生殖細胞変異原性	有用なデータなし。
発がん性	基油はIARCグループ3に分類されている。
生殖毒性	有用なデータなし。
特定標的臓器毒性(単回暴露)	有用なデータなし。
特定標的臓器毒性(反復暴露)	有用なデータなし。
吸引性呼吸器有害性	有用なデータなし。
その他	有用なデータなし。

12. 環境影響情報

生態毒性	有用なデータなし。
残留性/分解性	有用なデータなし。
生態蓄積性	有用なデータなし。
土壤中の移動性	有用なデータなし。

13. 廃棄上の注意

「廃棄物の処理および清掃に関する法律」に従い適正に処理する。産業廃棄物は事業者が自ら処理するか、または知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。廃容器の取り扱い 空容器に圧力を加えると破裂することがある。空容器は溶接、加熱、穴開けまたは切断を行うと、爆発を伴って残留物が発火することがある。

14. 輸送上の注意

輸送時には「7. 取扱い及び保管上の注意」の項に記載した内容に留意する。

国際規制		
国連分類		非該当
国連番号		非該当
品名(国連輸送品名)		非該当
容器等級		非該当
海洋汚染物質		非該当
国内規制		
陸上	消防法	危険物 第四類第三石油類(危険等級Ⅲ)
	毒劇物取締法	非該当
海上	道路法	非危険物
	船舶安全法	該当しない。
航空	航空法	非危険物
輸送の特定の安全対策及び条件		<ul style="list-style-type: none"> ・運搬容器及び包装の外部に、品名、数量、危険等級及び「火気厳禁」の表示をする。 ・指定数量以上を車両で運搬する場合は、「危」の標識を車両前後に表示し、消火設備を備える。 ・第1類及び第6類の危険物との混載を禁止する。

15. 適用法令

消防法
 労働安全衛生法(通知対象物質)
 海洋汚染防止法(油分排出規制)
 廃棄物の処理および清掃に関する法律(産業廃棄物規制)

16. その他の情報

- 引用文献**
- 1) IARC MONOGRAPHS ON THE EVALUATION OF THE CARCINOGENIC RISK OF CHEMICALS TO HUMANS VOLUME 33
 - 2) 許容濃度等の勧告(2010年度) 日本産業衛生学会
 - 3) Thresholds limit values for chemical substances and physical agents and biological exposure indices, ACGIH(2009)
 - 4) GHS対応ガイドライン 製品安全データシートの作成指針(改訂2版)
ラベル表示作成指針 日本化学工業協会
 - 5) GHS対応 MSDS・ラベル 実務早分かり 産業環境管理協会

- その他**
- ・この記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データに基づいて作成しておりますが、情報の正確さ、完全性を保証するものではありません。また記載した注意点は通常の手続きを対象としたもので、特別な取り扱いをする場合には新たに用途・用法に適した安全対策を講じた上での取り扱いが必要です。
 - ・すべての化学品には未知の有害性があります。取り扱いについては細心の注意が必要です。本品の適性な使用については使用者各位の責任において行ってください。
 - ・製品安全データシートは情報の提供を目的としたもので、安全の保証書ではありません。
 - ・本データシートの内容は新しい知見により予告なく変更することがあります。